

Wilmina AI Data Science Literacy Program  
自己点検・評価報告書

2025年3月  
大阪女学院大学  
大阪女学院短期大学

2022(令和4)年度より取り組みを始め、2023年8月に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」として認定されたWilmina AI Data Science Literacy Programを構成する唯一の科目として開講した「AI・データサイエンス基礎(以下、本科目という。)」について、2024年度の自己点検・評価を実施した。評価項目は文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)実施要綱細目」3の(2)及び(6)の内容に準じた。

## I. 評価体制について

本学のカリキュラムセンター(カリキュラム統括部)は、教育課程における内部質保証の責任担当組織である。本学の共通教育科目群(研究・調査の方法及びコアエリア情報)を含むカリキュラムを構成する授業科目及び授業科目群に関する施策の企画・立案・運営・点検・改善を目的とし、活動している。

## II. 学内からの視点

### 1. プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項

- ・大阪女学院大学、大阪女学院短期大学(以下、本学という)では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の目的を踏まえ、AI・データサイエンス教育は次世代を担う学生にとって不可欠であると考え、2022年度入学生より、大学(国際・英語学部)及び短期大学(英語科)の1年次全学生必修科目として本科目を開講した。
- ・開講にあたっては、学習効果を向上させるとともに、他科目の課題等による負荷の影響を考慮し、学期末の課題提出や定期試験受験が集中する時期を避け、秋学期開講後から12月末にかけて学習スケジュールを設定した。学生に対しては、昨年度と同様に、e-learningサイト上におけるオンデマンド学習と対面サポートの9回を組み合わせて学習を進めることを説明した。\*1)~\*3)
- ・学修成果を高める取り組みとしては、学生に全15回の動画視聴と視聴後の確認テストで満点取得すること、第9~12回の授業ではエクセルを利用した「データを読む」「データを説明する」「データを扱う」の操作処理とその成果物の提出を求めた。e-learningによる学習では、動画視聴が何度でも繰り返しできること、自分のペースで学習を進められることにより、一定の学習効果が得られた。\*1)
- ・2024年度は学生を3グループに分け、さらにそれを小グループに分けて学習を進める方法も併用した。期限までにグループ内で課題を進める。分からない場合や、思うように進めなかったグループは、対面サポートを受けるなど、この方法により学生同士で助け合いながら、進めていくことができた。\*2)
- ・修了率は、昨年に比べて短大は若干下がっているものの、85%以上である。履修者数には長欠者や再履修生も含まれることから、それらを除くとほぼ9割が単位修得しているとみられる。2024年度の単位未修得者については、翌年再履修させている。\*3)

\*1)

〈全15回授業内容〉

第1回	データサイエンスとは	第6回	データ活用とは	第11回	データを説明する
第2回	社会で起きている変化	第7回	データ・AI活用	第12回	データを扱う
第3回	社会で活用されているデータ	第8回	データ・AI活用の最新動向	第13回	データ・AIを扱う上での留意事項(1)
第4回	データ・AI活用の活用領	第9回	データを読む(1)	第14回	データ・AIを扱う上での留意事項(2)
第5回	データ・AI活用のための技術	第10回	データを読む(2)	第15回	データを守る上での留意事項

15回すべての授業動画を視聴し、15回すべての確認テストで満点を取得して、第9~12回のエクセルファイルも提出すると合格(Pass)となる。

動画視聴、確認テスト、エクセルファイルの提出を2024年12月28日までにすべて済ませることを推奨する。e-learning教材の利用期限は、2025年1月11日23:59

## \* 2)

〈学習の進め方〉

基本はオンデマンド形式であるが、質問対応のため、9回の対面サポートの機会設けている。

全体オリエンテーション

10/4 (金) 全員出席必須

グループa

10/24(木)5限:10/19(土)までに7「データ・AIの利活用の現場」が未完了の学生は出席必須

11/14(木)5限:11/9(土)までに12「データを扱う」が未完了の学生は出席必須

11/28(木)5限:11/23(土)までに15「データを守る上での留意事項」が未完了の学生は出席必須

グループb

10/29(火)3限:10/26(土)までに8「データ・AI利活用の最新動向」が未完了の学生は出席必須

11/12(火)3限:11/9(土)までに12「データを扱う」が未完了の学生は出席必須

11/26(火)3限:11/23(土)までに15「データを守る上での留意事項」が未完了の学生は出席必須

グループc

10/25(金)5限:10/19(土)までに7「データ・AIの利活用の現場」が未完了の学生は出席必須

11/8(金)5限:11/2(土)までに10「データを読む(2)」が未完了の学生は出席必須

11/29(金)5限:11/23(土)までに15「データを守る上での留意事項」が未完了の学生は出席必須

## \*3) 履修・修得状況 ( )内は昨年度

	大 学	短期大学	合 計
履修者	128名 (82名)	48名 (43名)	176名 (125名)
修了者	110名 (70名)	42名 (36名)	152名 (106名)
修了率	85.9% (86.3%)	87.5% (93.3)	86.3% (88.3%)

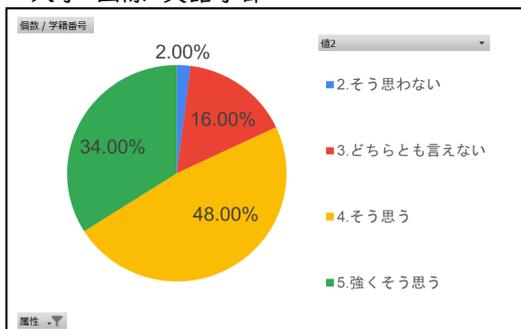
## 2. 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・後輩等他の学生への推奨度

- ・本科目でも全学的に実施している授業アンケートを実施した。回答者数・回答率(大学:50名・39.1% 短期大学:26名・54.2%) 結果は、以下のQ3~Q9 \*4) のとおりである。授業への意欲、内容や進度、また教材や動画の適切性、満足度はおおむね肯定的な結果であるが、総じて短大の結果が大学に比べて低いことが懸念される。
- ・データサイエンスの理解度に関して、とくにQ9の結果をみると、学生の「3.データの扱い方」の理解度は特に高いものとなった。他方「1.データサイエンスの概念の理解」「2.データサイエンスの事例の理解」「4.データ分析手法」「5.データ・AIを扱う上での留意事項の理解」は「3.データの扱い方」ほど高くはないが、Q8の結果では、身につけた知識を活かせるかと答えていることから一定の理解度はあると言える。ほぼ前年度と同様の傾向がみられるが、大学に比べて短大生の理解が低いことが懸念される。
- ・本科目を学ぶ学生が動機をより一層明確にできるよう、アンケート「Q10この授業を受けて良かった点」の回答としてまとめた以下の内容を、次年度履修者に案内する。
  - 課題は自分のペースで進められるため、無理なく続けられる
  - Excelの使い方が身につく、初心者でもスキルアップできる
  - 社会人になっても役立つ実践的な知識が得られる
  - グループワークで仲間と協力しながら学べるのでコミュニケーション力も向上する
  - データサイエンスやAIの基礎をわかりやすく学べる
  - わかりやすい動画教材が充実しており、初めてでも理解しやすい
  - 質問がしやすく、疑問はすぐに解決できる環境が整っている
  - 将来に必要なスキルを効率よく身につけたい人におすすめする

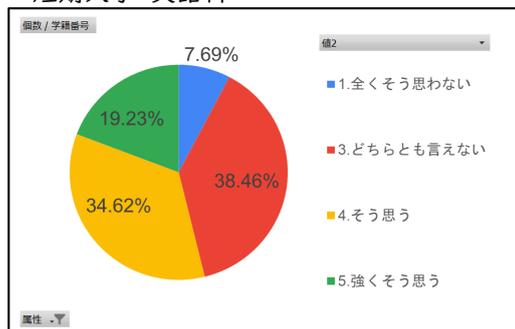
\*4)

Q3私はこの授業に意欲的に取り組んだ。

大学 国際・英語学部

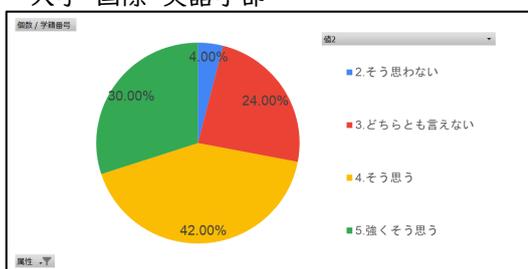


短期大学 英語科

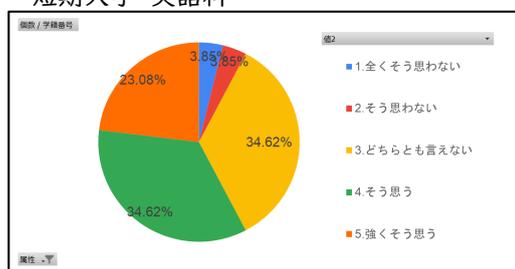


Q4この授業の内容や進度は、自分にとって適切であった。

大学 国際・英語学部

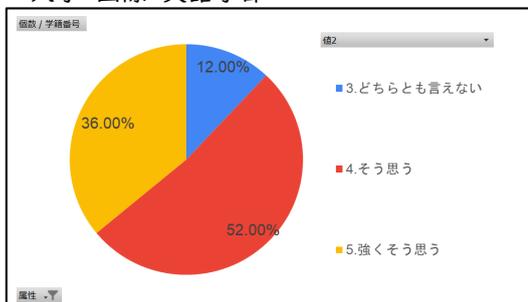


短期大学 英語科

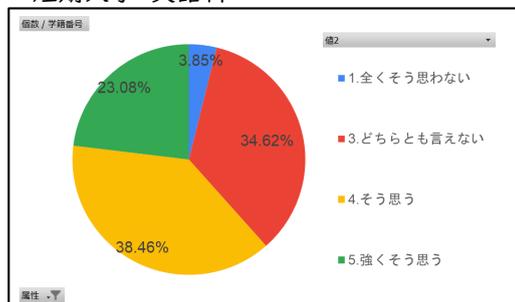


Q5この授業の教材または動画は適切であった。

大学 国際・英語学部

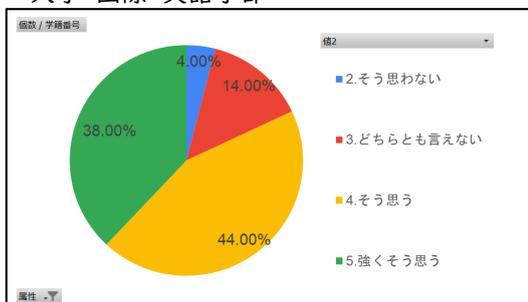


短期大学 英語科

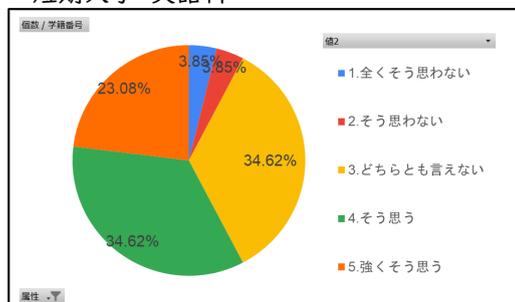


Q6私はこの授業を受講して総合的に満足した。

大学 国際・英語学部

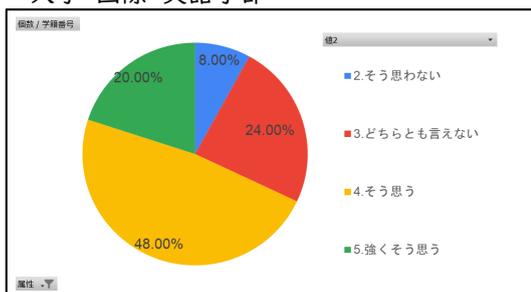


短期大学 英語科

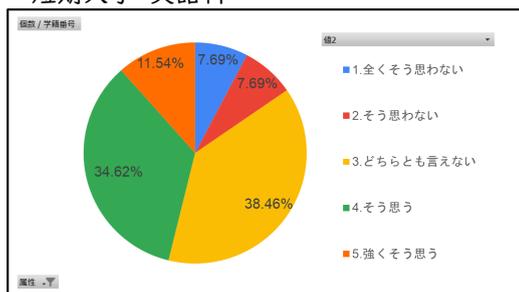


Q7私はこの授業を受講してデータサイエンスという学問領域に興味・関心を持った。

大学 国際・英語学部

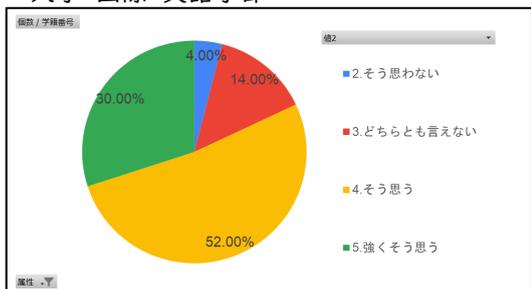


短期大学 英語科

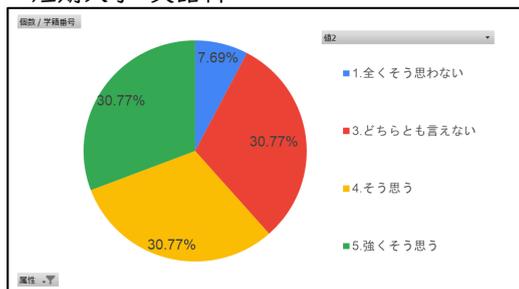


Q8私はこの授業で身につけたデータサイエンスの知識を自分の将来に活かせると思う。

大学 国際・英語学部

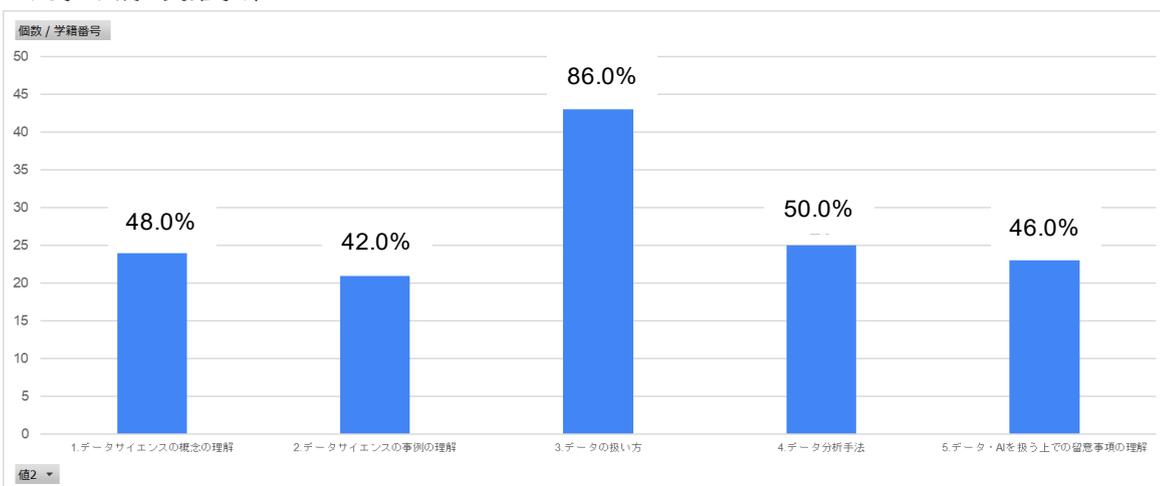


短期大学 英語科

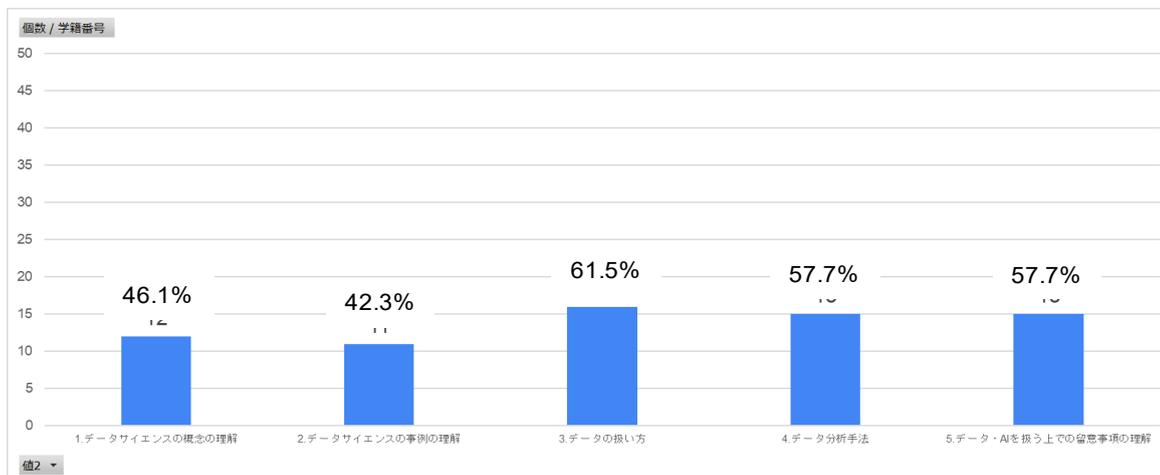


Q9この授業を受けて、身についたと思うことを教えてください(複数回答可)

大学 国際・英語学部



短期大学 英語科



### 3.全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

・入学者数に対する本科目の履修率は1年次全学生必修科目であるため、短期大学においては2023年度に100%となり、大学においては2025年度に100%となる。\*5)

#### \*5) 履修率移行状況

年度	大学	短期大学
2022 (R3)	34.4%	64.3%
2023 (R5)	60.4%	100.0%
2024 (R7)	88.1%	100.0%
2025 (R8)	100.0%	100.0%

### Ⅲ.学外からの視点

#### 1.教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項

・短期大学においては2024年度以降、大学においては2027年度以降の卒業生調査において、本科目を修得した卒業生の活躍状況の把握が可能である。2025年度に短期大学の卒業後アンケートにてAI・データサイエンスに係る学びが現在の環境でどの程度役に立っているかの設問を設ける。

#### 2.産業界からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法に関する事項

・本学の卒業生が就職した企業等を対象としてアンケート調査を実施している。このアンケートに設問を加える形で、本学卒業生に対する情報リテラシー及び数量的スキルの修得状況を調査し、本科目の改善に活用する。

### Ⅳ.改善・進化に向けた取組

#### 1.数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

授業以外において、1年次全学生必修科目「総合キャンパスプログラム演習」においてテクノロジーライターが「デジタル社会の問題を考える授業」を行うことにより、学生の数理・データサイエンス・AIを「学ぶことの意義(動機付け)」や「学ぶ楽しさ」の理解が深まるように努めている。

#### 2.内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とすること

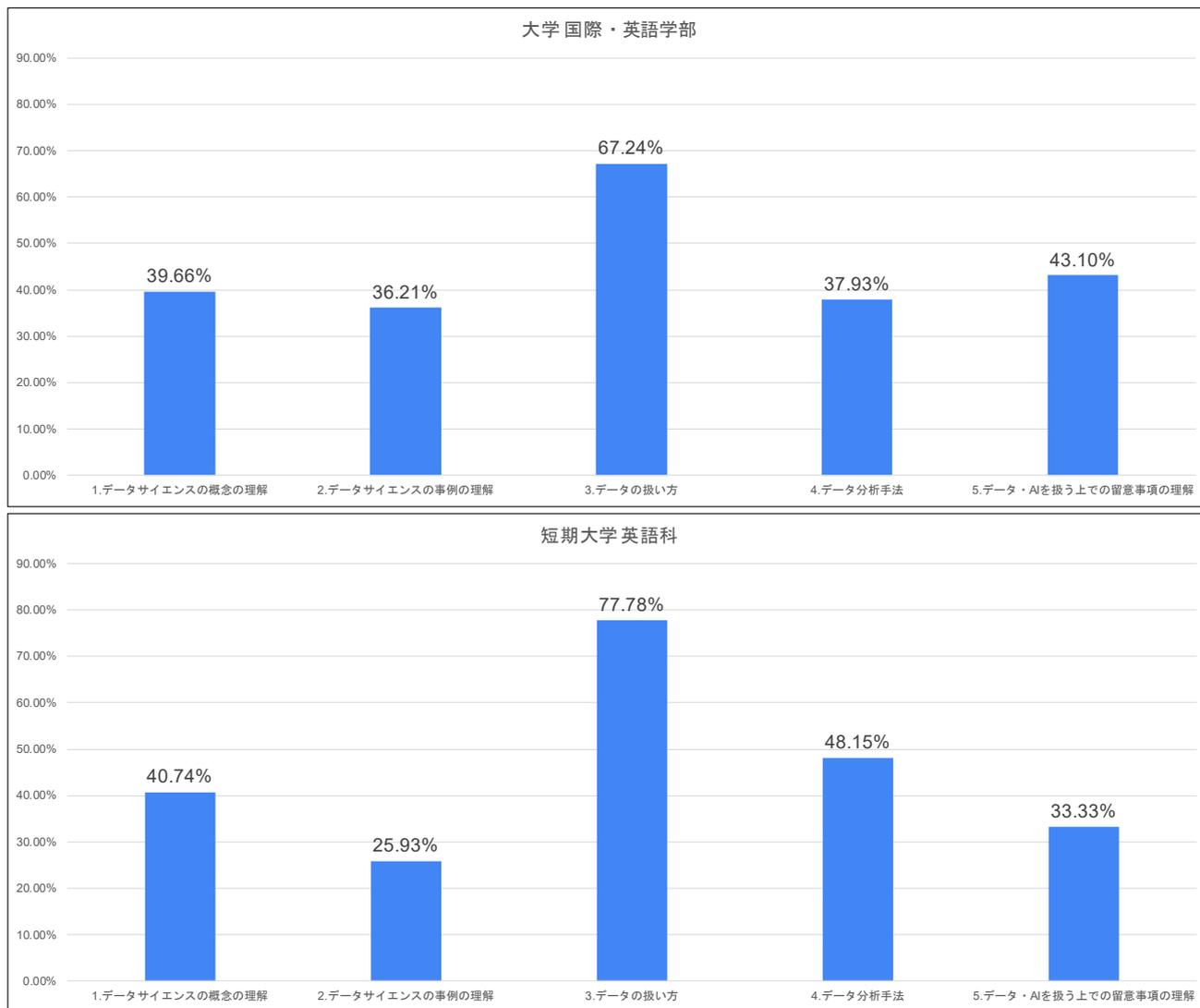
・授業評価アンケートQ9 \*4)で尋ねているデータサイエンスの理解度について、「3.データの扱い方」の理解度は一定高いものの「1.データサイエンスの概念の理解」「2.データサイエンスの事例の理解」「4.データ分析手法」「5.データ・AIを扱う上での留意事項の理解」についての理解度は50%前後に留まっている。これらの点について「分かりやすさ」の視点から授業の内容と実施方法を継続的に改善することが課題である。

#### 3.次年度における更なる学修成果向上に向けて

・昨年まではe-learningによるオンデマンド授業を軸にしていたが、2025年度はオンデマンド授業ではなく、90分の授業を15回実施する。動画視聴を授業外にするなど、教室内では一定の理解の定着を試みるなど、授業の改善に取り組む。次年度も継続して、日本語を母語としない学生に対して、同じ国の出身である先輩などが学修をサポートできないか、体制を模索したい。

(参考) 2023年度

Q9この授業を受けて、身についたと思うことを教えてください(複数回答可)



#### V. 参考リンク(文部科学省)

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)実施要綱細目」

[https://www.mext.go.jp/content/20250310-mxt\\_senmon01-000012848\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20250310-mxt_senmon01-000012848_01.pdf)